

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名	太良町立多良小学校			
-----	-----------	--	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・「教育基盤の確立」:教育活動のすべてを学びの機会と捉え、子ども達の活動時間を確保した上で、自分の“成長”“伸び”“変容”を実感させることで、一人一人が自分の力を発揮し輝くことができる教育活動を行っていく。 ・「学力の向上」:『めあて・活動・ふりかえり』の学びの習慣を身につけさせ、学力向上の基盤となる、言語力の向上に向けた取組を、国語科を中心にして、全教科・全領域、学校行事等で行う。(子ども達の話す、聞く、書く、話す場面を増やす。)読書活動の推進。 ・人権教育。他者を思いやる教育活動の工夫と推進。(環境教育、美化活動)			
2 学校教育目標	「大人も子どもも、目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”」～生涯学びの基礎づくり（学びの習慣づくり）～			
3 本年度の重点目標	・ 人権教育を意識した教育活動の充実及び“生きる教育”の実践。 ・ 学習や様々な活動において「めあて」→「活動」→「振り返り」を取り入れながら、自分自身で自分の活動を振り返り、高められる力を付ける。 ・ 「出番」をつくり、「役割」をもたせ、その過程や結果を「承認」「称賛・賞賛」し、自己肯定感や自己有用感を高める。			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○授業改善の推進 ○学習意欲の向上と言語活動の充実 ○基礎学力の向上	・授業改善を進めた教師の割合90％ ・授業が分かると答えた児童の割合90％ ・授業や学校行事の中で自分の考えを話したり、書いたりすることができる と答えた児童の割合80％ ・授業ではめあてをもつて取り組み、振り返りまでできた児童の割合80％	・教師間フリー参観とフロア研授業参観。 ・学習状況調査・CRTの分析と活用。 ・ICT(タブレット)の活用と隙間読書の推奨。 ・ノートグランプリや音読コンクールなど 児童の学習意欲が高まるイベントの企画。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、校内研や定期的なフロア研修の中で 振り返りや情報交換を行う。	井上・吉田・学力PJ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・困っている人や周りの人にやさしくできていると思う児童90％以上 ・人権集会や全校集会を通して人権について深く考えることができたと思う児童80％以上	・道徳教育(ふれあい道徳)の充実。 ・人権週間及び人権集会の実施と振り返りシートによる意識づけ。 ・「生きる教育」研修への参加及び人権教育への実践に繋げる。	水山・川原・山崎・中島・里見 生活PJ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・学校で誰かに相談できると答える児童の割合90％ ・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を増やす	・いじめ防止に関する研修(長期休業)。 ・教職員アンケートの実施。 ・教育相談週間の実施、心のアンケートや学習生活についてのアンケートの実施による実態把握。	藤田・中島・教頭・生活PJ
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90％以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85％以上	・きらめきカードを6月、11月に取り組み、担任は児童にフィードバックを行う。 ・キャリアパスポートを各学期で活用し、夢や目標を意識する機会を設ける。	秀・川原・特活PJ・各担任
	○児童自身が、自分のよさや可能性を認識し、自己肯定感・有用感を育む教育活動	・自分には良いところや頑張っていることがあるといえる児童の割合80％	・特活的行事(運動会、学習発表会等)のふりかえりやほかほかの木の取り組みを行い、児童一人一人の頑張りを賞賛し、自己肯定感を高める。	新城・山崎・特活PJ・全職員
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣及び食習慣の形成」 ●「健康・安全を考えて行動できる能力の育成」	・早寝・早起き、朝ごはん(喫食)を心掛けていると回答した児童の割合80％以上 ・苦手なものでも給食を残さず、または一口は必ず食べるように努力をしてきた児童の割合75％以上 ・避難訓練を通じて、自分の命を守ろうとしている児童の割合を80％以上	・食育授業の全学年実施と栄養教諭による給食実施。 ・定期的な生活チェックカードの実施。 ・年3回の避難訓練の実施。	福田・中島・永尾・生活PJ
	○運動・スポーツへの関心拡大と積極的な関わり促進	・運動・スポーツをすることが楽しいと回答した児童の割合85％	・スポーツチャレンジへの積極的な参加。 ・体育科の授業を中心として様々な運動・スポーツに親しむ。	秀・特活PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定。 ・協働体制づくりと業務見直し・改善。 ・教育課程及び校時運行の見直しによる時間の確保。 ・「多良小学校教育のてびき」を作成し、業務の見える化を図る。	校長・教頭
●特別支援教育の充実	○自立に向けた特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上。特別な支援を要する児童への対応力の向上	・特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員の割合の増加	・特別支援に関する職員研修の実施。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有。	里見・秀・川原
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○学校と地域等の連携強化	○児童、学校、保護者、地域、行政等、五者間連携の活動促進 ○外部との連携による豊かな体験学習	○地域学校協働活動への参画意識の向上と参画した地域住民、保護者等の増加 ○市町県等、学校外の機関と連携し、各学年に応じた体験学習をすべての学年で実施	・学校行事、校外活動、日常的教育活動へのボランティア参加(保護者、地域の方)。 ・学校行事参加の依頼、呼びかけ、宣伝。 ・PTA共催”ひつきやで子育て”大茶話会の開催。 ・気軽に学校に足を運べるような働きかけ。 ・各学年に応じた外部との連携による体験学習を計画し、児童の感性の育成を図る。 ・150周年実行委員会の実施	校長、教頭、教務、各担任、地域連携Co

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・			
--------------------	-------------	--	--	--